

# 『学院史料』創刊によせて

院長 岡 本 道 雄

『学院史料』と名づけられる神戸女学院史料室の機関誌が発行されることになった。神戸女学院は一九七五年に創立百周年を迎え、「総説」、「各論」二冊からなる『神戸女学院百年史』を発行したのであったが、今回のこの機関誌の発行は、次の『百五十年史』、『二百年史』のためのものである。

『神戸女学院百年史 各論』の執筆、編集にたずさわった一人として思うことは、神戸女学院は実に豊富な史料に恵まれているということである。これは一〇〇年余の長い歴史の中で、戦前の宣教師の先生方をはじめとする先人達が、実に丹念に記録や報告書を残してくれたからだと言うことも出来るであろうし、また神戸女学院が創立以来、災害らしい災害にも遭わず、また殆ど、戦火からもまぬがれることができたからだと言うことも出来るであろう。

このような豊富な史料があったればこそ、われわれは、二冊のかなり浩瀚な『百年史』を発行することができたのであったが、しかしこの『百年史』作成を通してでも、神戸女学院の史料は、十分に整理され、解明され、活用されつくしたとは言えないのである。史料室には、なお研究解明、公表を待っている数多くの「宣教師文書」があり、また今尚学院のところどころから、未整理の貴重な史料が発見されることもある。そして総じて史料というものは、そ

の主要なものは、公開され、このような史料に関心をもつ研究者の便に供すべきものであると思われるが、神戸女学院の史料は、まだそのような形に整備され、公表されてはいないのである。

神戸女学院では昨年より『神戸女学院百年史 総説』の編集の責任をとられた元総合文化学科教授の渡辺久雄先生を学院顧問(史料室担当)にお願いして、同先生を中心にこのような史料の整理のための、また必要な史料(資料)がどこに保存されているかが一目瞭然に明らかになるための、『目録』の作成をお考え願うと共に、史料の発表の形式についてもいろいろ御検討いただいたのである。

既に百周年を迎え、また『百年史』を発売したキリスト教学校も次第に増えているが、たとえば『同志社百年史』には「通史編」二冊に、「資料編」二冊が付け加えられ、このような形での史料の発表がなされている。また明治学院では『明治学院百年史』を書くために用いられた資料が、別冊で昭和五十三年現在第八集まで出版されている。そしてフェリス女学院は、百周年以後、新資料発表や資料研究のための機関誌『あゆみ』を発売している。そしてここに神戸女学院も種々検討の後、『二百年史』作成のための史料の収集、解明を主要目的とした今回の『学院史料』の発刊にふみ切ったのである。

このような定期的な機関誌の発行は、編集にあたる人々には大変な重荷を与えることになると思うが、若山さん達の尽力によって、良い機関誌ができ、これがいつまでも続くことを願ってやまない。